町村新報

發行日　每月二回　十五日卅日
編輯兼印刷發行人　酒井秀吉
發行所　福島縣石城郡磐崎村大字下湯長谷勝善三十八番地　町村新報社
定價　一部金七錢（郵税共）一ケ月十四錢　半ケ年八十錢　一ケ年壹圓五拾錢
廣告料　五號活字十二字詰　一行金二十錢　別色刷　四十錢

社告

鈴木繁（照海）

右今般本社營業部長トシテ就任仕リ候間宜敷御後援願上候

町村新報社

眞の政治家

政治は勢だと言ふが、今の世はそう斗り考へられなくなつた。國家を基本として其の國民に安住の地を與へるのが眞の政治である、故に政治の如何は直ちに國民生活に反映して來るものである、世相を以て政治の如何を考察する事が出來る。政治は理想よりも、其結果の如何に心を至さねばならぬ。昨日の百兩より今日の十兩である、高直の理想はよいかも知れぬ、然し明日迄飢死したのでは何にもならぬ、天は祿なき民を造らず、である。國家が存在し國民が居住する以上、之に生活の不安を起さしめるのは、何か施政上に大なる欠陷がある譯である。同じ國民に食ひぬ人間があると言ふのは、尋常一樣の事でない、働くにも仕事がない、働いても食ひない、斯うなると實際國家としての存在に對し、政治家の手腕がない事になる、不景氣は世界的である。自然の推移に委する外はないとは、余りに無責任である、自殺を封助すれば罪になる、勿論殺場は刑罰にされる、今や生活難のため、隨分色々な悲劇慘劇が演ぜられる、吾人は少くも目今の世相を見て、失業問題、不景氣深刻に對しては、爲政者が眞劍に考慮すべき重大問題と思惟する、原に緊縮、節約、國產品愛用丈では駄目である。緊縮や節約の出來る人は未だよい部分である、一擁の食を得るのに血眼になつて騷き立てる人々を如何にするかが問題である、そして不景氣問題は獨り貧乏人斗りでない、資本家も共に困るのだ、銀行は潰れる、事業會社は欠損する、この儘では世の中は暗黑である、少しも光明がない、先の知れないトンネルである、初め思つた緊縮丈で景氣は來ない、机上の理想や空論はやめにして、國家に最も大多數を占めて居る下層級の實情をよく見つめて貰ひたい、自已を本位とした、地位や名譽や權務やを眼中に置かぬ、眞の國家國民に基點を置いた政治家の出現を望みたい。

今年の梅雨

多少變調であつたが昨今漸く常の配置に

日本の入梅は如何なる時に起るものであるかといふと先づ北方樺太、オホーツク海、千島あたり一面に高氣壓が這ひ出して來て日本の北部を冠する高氣壓の壁面を構成する、一方恰度此の頃になると揚子江其他支那方面に低氣壓がどし〳〵出來て來て北に向つて進んで來る、之は高氣壓とこの低氣あつの間、即ち日本全土の上方に氣あつの低ひ帶所謂谷が作られてその中を支那方面の低氣あつが通つて來るのである、然し此の低氣あつは自然行く手に壁をなしてゐる高氣あつと衝突して或ひは停滯し、或ひは潰されて陰鬱な重苦しい覆ひ被さるやうな天候を我々に齎せたり、何時霽れるとも知れぬ霖雨を見たりするのである、この低氣あつの道となつた氣あつの低い谷は段々南方から北に向つてずれて行くのであるが梅雨が南から上つて行くのはこの爲なのである、今年の梅雨の配置は如何であつたかといふと可成例年とは違つて稍變調でシベリヤ邊に生じた高氣あつが壁を作らずに樺太からオホーツク海に向けて倘拔けに逃げ去つてしまつて通常ならば既に出來てゐる筈であるのに、いつかな高氣あつの壁を構成しなかつたのである、がこの三日頃から漸く芽を見せ初めて梅雨の配置となつた譯である、併しこの配置が遲れたからと言つて必ずしも梅雨が長びくものと言へない、案外に早く上つてしまふかも知れないのである、では梅雨の上るのは如何にして行はれるものであるかと言ふと大低はこれから颱風期にも入ることだし強い低氣あつが出來て高氣あつの壁面を突き破り、高氣あつ中に屬する氣流を搖き廻してしまふと梅雨が上るのである、併し好い加減な低氣壓が高氣壓を突切つても回復力があれば、直ぐに高氣壓は再構成して元通りになつてしまふ、梅雨の終り頃になつて高氣壓の力が弱つた頃に突切ると最早取戻せないので高氣壓は破れて梅雨は霽れ上る、極めて稀ではあるが高氣壓を突き破るべき低氣壓が生じない事がある、そんな時には高氣壓は消えないかと言ふに矢張時期を外してからは自然に消失してしまふものであるがこの場合には梅雨は非常に長びくのである。

濕度とは

大氣中の水蒸氣　其濃淡と人の生活

「けふはどの位だろう」とよく養蠶家などが調べてゐます、それは氣温より温度の方で、温度の如何は蠶兒の發育に非常に關係の深いものであります、此の温度と云ふのは空氣中に含まれた水蒸氣のことで、それを計るには温度計を用ひるのであります、扨温度は氣温が高くなればなるほど多くなるもので、適當にこれが含まれていると、よく空氣の乾燥を緩和して人の生活を愉快にします、なほ温度を計ることは、又天氣の變るのを以前て知る便利もあるわけです。

氣温の話

人體に適した温度　正しく計るには

氣温と云ふのは空氣の温度のことでります、大抵の場合、地上から高くなるにつれて冷たくなります、攝氏の十五度から二十度位が一番人の身體に適してゐます、二十五度以上は暖か過ぎ十度以下ですと火鉢がいると云ふ位になります。正しくキ温を計るには日蔭の風通しのよい處へ寒暖計を下げて計ることです、三十分たてば正しい示度がわかります、なほ氣象學上の名稱を申しますと攝氏零度以下の時は氷点で何度と呼び一日の中で一番高かつたキ温は最高キ温、低い時を最低氣温、キ温の同じ地点に線を引き連ねた線を等温線と呼びます。

湯本郵便局長
鯨岡潔
中野松枝
外局員一同

藤原郵便局長
小港德治

三井礦山
湯本礦業所
勞務係一同

白鳥鑛泉旅館

神經痛、リウマチスニ
特効アル
白鳥鑛泉へ
湯本驛ヨリ一里

春木屋　織内祐助
喜樂屋　高橋庄吉
吉田屋　吉田己代太郎

新油屋
綠川德次郎
植田町

渡邊清
植田町

植田水力電氣株式會社
社長　金成通
植田町

內科
小兒科
久田醫院
石城郡磐崎村下湯長谷